

## 日印フォーラム

ナマスカール (Namaskaar)、こんにちは。

外務大臣の岩屋毅です。

ジャイシャンカル外相、アナンタ・センターの皆様、御列席の皆様、日本政府を代表して、第3回「日印フォーラム」の開催をお祝い申し上げます。

このフォーラムは、2021年以來、両国の幅広い分野の専門家が活発に議論を交わす場として、日印関係の大きな潜在性を具体化させるために、その役割を果たしてきました。

今回のフォーラムでも、二国間の伝統的な協力分野に加え、AIといった新しい分野の議題も含まれています。本年で10周年を迎える「特別戦略的グローバル・パートナーシップ」の一層の強化に向けて、有益な議論が行われることを期待しています。

日本とインドは、法の支配や民主主義といった基本的価値と戦略的利益を共有するパートナーであり、インド太平洋地域の平和と安定に大きな責任を負っています。

先日も、イタリアでのG7外相会合の際にジャイシャンカル外相と会談を行い、「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」の実現に向けた協力を確認しました。日米豪印を通じた実践的な協力も着実に成果を上げています。このような同志国による連携を更に進めていく考えです。

また、日印両国が国際社会の平和と繁栄に貢献していく基盤として、二国間関係の強化も重要です。

安全保障分野では、重層的な共同訓練が行われています。また、艦艇搭載用の複合アンテナ「ユニコーン」の移転に向けた協議も進められています。この分野での連携を一層強化するため、両国の安全保障協力の指針となっている「共同宣言」の改定を進めて参ります。

経済面でも、「対印官民投融资5兆円目標」の達成に向けて着実な進展がみられます。また、現地の日本企業が、インドを拠点として、将来の成長が期待できるアフリカなどの第三国への輸出にも取り組んでいます。

こうした日本企業の活動を日本政府としても支援することで、「Make in India, Make for World」に貢献し、両国のみならず、世界の成長と繁栄に向けて協働していきたいと思えます。

さらに、二国間の中長期的な柱として、人的交流も重要です。この分野は、大きなポテンシャルを有する分野です。両国の官民が知恵を出し合い、取組を拡大させていきたいと考えています。

最後に、本日の「日印フォーラム」の成功と皆様の更なる御活躍を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

ダンニャワード（Dhanyawaad）。  
御清聴、ありがとうございました。